

---

# さようなら、最愛の人

悲劇のM

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さようなら、最愛の人

### 【Nコード】

N3448F

### 【作者名】

悲劇のM

### 【あらすじ】

筆者の大好きなこんにやくゼリーが製造中止になるそうですね。その怒りを文章にしてみました。

病院の個室。俺はその少女　こんにやくゼリーの前で肩を震わせていた。俺の幼馴染であり、世界で一番大好きで、大切な人。

彼女は重度の癌に侵されていた。身体に癌が見つかったのが五年前。その頃十三歳だった俺と彼女は、何が何だか分からなかった。そんな俺達に、現実には容赦なく襲い掛かる。

癌の進行が進むにつれ、ぷるんと美しい肌は残れど、彼女の自慢の黒髪はこっそり抜け落ちた。何とか学校に通っていた彼女も、それが原因でいじめられた。

俺はいじめる奴らを本気で殺そうかと思った。しかし、そんなことすると牢屋にぶち込まれ、彼女に一生会えなくなる。殺そうと包丁を鞘に隠そうとする際に、いつもそこで理性が働いた。

言葉で言っても、所詮俺が何を言っても無意味だった。

結局彼女は不登校になる。それが原因か、病状は更に悪くなる一方だった。抗がん剤などの影響もあってか、ストレスがたまり、何度も手首を切ったりした。

俺は悲しかった。大好きなこんにやくゼリーが、目の前で壊れていく。

それでも目の前の彼女は再三に渡る手術を乗り越えた。しかし、彼女を蝕む悪魔が消えることは無い。医者が言う彼女の余命は、今日だった。そして、今まさに彼女は峠を越えようとしていた。

「あつけないな。あたしの人生、十八年で終わるんだね……」

目の前で横たわる彼女の瞳は、多くの涙を湛えている。当たり前だが、十八年という短い人生が、もうすぐ終わろうとしている。辛く悲しい現実には、誰が泣かずにいられるんだ。

「諦めるなこんにやくゼリー、お前はまだ生きるんだよ！　昔言っ  
たら、将来は俺のお嫁さんになるって！　俺、ずっと憶えてるんだぞ！　忘れたなんて、言わせねーよ」

気が付けば、俺も泣いていた。涙で霞んで彼女の姿が見えない。それでも彼女が泣いているというのは、弱弱しく泣く彼女の声でわかった。

「バカ、昔のこと覚えてんじゃないわよ……うつ、ごふっ！」

こんなにやくぜリーは大量の血を吐いた。苦しそうにしている彼女を嘲笑うかのように、潔白の白いシーツは紅く染まる。

「おい大丈夫か！ 待ってろ、今医者呼ぶから」

俺は病室の外へ走り出そうとする。しかし、こんなにやくぜリーが俺の手を掴んでそれを阻止した。とても弱弱しい力だった。

「もう、あたしは死ぬ。自分の身体のこととは自分がよくわかってるの」

「バカ言うなよ、これから二人で沢山楽しい思い出作るんだろ！ 諦めんなよ！ 頼むから、死なないでくれよ……」

こんなにやくぜリーは泣き崩れる俺の頭を優しく撫でた。そして窓の外に見える枯れ木を指さす。

「見える、あの木の枝に最後に残っている一枚の葉っぱ。あれが散る時が、あたしが死ぬ時だよ」

「ふざけるな、まだお前は死なないんだよ……。俺がお前を守るんだよ……」

「けどね、あたしもう疲れたんだ。だからもう、ゴールしても、いいよね？」

「ダメだ、お前はまだゴールしちゃダメだ！ ゴールしちゃダメだ！」

そして、最後の葉っぱが散った。

「

ル

」

こんにやくゼリーは、息を引き取った。

「こんにやくゼリー――――――――――  
――――！！！！！！！！！！」

俺とこんにやくゼリーとの、永遠の別れだった。

俺の家の庭には、一本の木が植えてある。

秋には一枚残らず葉を散らせるが、夏には眩いほどに緑の葉をつける。

それは、こんにやくゼリーが俺に笑いかけているかのようにだった。

(後書き)

<http://www.shomei.tv/project-146.html>

こんにやくゼリー製造中止反対署名活動にご協力ください。あなたの一票がこんにやくゼリーを救う！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3448f/>

---

さようなら、最愛の人

2010年11月2日03時52分発行